

がんじゃくさん 岩石山 山のほりマップ

歴史と自然と笑顔にあふれる岩石山



岩石山の巨岩めぐり

岩石山はその名の通り岩の山です。いろいろなところに巨大な花崗岩がむき出しになっていて、登山ルートの人気スポットになっています。

- 国見岩**：巨大な花崗岩が真二つに割れたように左右から迫る雄姿の岩壁。MAP D
- チヨウシストーン**：岩の間にはまって宙づりになった岩をチョウストーンといいます。MAP A
- 迫る岩**：MAP A
- 大砲岩**：大砲が突き出たような岩。裏に絶妙なバランスで保っています！ MAP C
- 八雲岩**：人ひとりがやっと通れる岩の門。滝ルートのお楽しみスポットです。MAP B
- 量8枚分の広さがあるという四角い真っ平な岩。眺めも良く、お弁当を広げるにはちょうどいい場所です。** MAP E

岩石城跡を歩いてみよう!



岩石城 保元3(1158)年～元和元(1615)年
岩石城の歴史は、平清盛が大庭景親に命じて築いた城からはじまります。以来、葛治・大友・大内・秋月氏など多くの地方豪族たちがここを奪い合いました。天正15(1587)年の豊臣秀吉による九州平定では、秀吉軍1万の兵によりわずか1日で落城。その後、細川忠興により再興されましたが、「一国一城令」により廃城となりました。



今からおよそ400年前まで、岩石山の山頂には「豊前一の堅城」と称えられた山城「岩石城」がありました。今でも奥の院から山頂にかけ、山城特有の名残を多くとどめています。岩石山に登るとそれら遺構をすぐに見つけることができます。城を守った武将たちの気持ちを想像しながら歩くと、またひとつ違った山登りが楽しめます。



天守台跡
天守台跡に建てられた展望台から、筑豊平野はもちろん、行橋方面や玉満山の山々まで広範囲に見渡せます。ここでは瓦片も発見されているので、見張りのための天守があったのではないのでしょうか。



本丸跡
天守台より南8mほど下にあるL字型の平地。南に突き出た平地の横に城の入口とされる虎口(こぐち)の跡がみられます。ここで多くの瓦片が出土されました。



瓦片
山頂付近を歩いているとそこそこに見つかる瓦の破片。小倉藩の最初の藩主だった細川忠興が治めていたころの岩石城に使われていた瓦だと考えられています。



柱穴(ちゆうけつ)
花崗岩に掘られた直径20cmほどの穴がいくつも並んでいます。おそらく外部からの侵入を防ぐ「逆茂木(さかもぎ)」などの構が立てられた場所だったのかもしれませんが。



奥の院
標高400mにある奥の院の展望台からは添田の街がよく見渡せます。見張りの場所だったと思われるが、秀吉軍の大軍を見た時の城兵たちの気持ちを想像すると……。



堀切り
左右対称V字に削られた谷。ここは敵の侵入路となる山の稜線を断ち切る防衛策として人為的に造られた堀です。何も知らない普通の谷間しか見えません。



櫻岩(くさびいわ)
四角い穴の列は、岩を割るための楔を打つために開けられたものです。岩石城跡で見られる楔跡は、戦国末期から江戸初期の築城に見られる石切技術で「矢穴」ともいいます。



馬場跡
東側に伸びた広い平地は「馬場」と言い伝えられる場所。瓦片が多く見つかったことから、ここにも大きな建物があつたと考えられています。秀吉の岩石城攻めでは、牛馬三百頭が城から放たれたという逸話があります。



古井戸
山頂から高低差50m以内に数箇所の水源地が発見されています。井戸は今も水を汲むことができ、山頂に近い場所でも井戸が枯れないことは良い城の条件とされています。

岩石山の植物図鑑

春一番はタムシバの白い花が可憐に咲き、5月はコバノミツバツツジやヤマツツジ、秋はタマミズキの実が山を紅く染めます。岩石山は一年を通じてさまざまな植物の営みを観ることができます。県内では希少種となつてしまったウドカズラやマツグミなど、絶滅が危惧される植物もいくつも見られるなど、岩石山には昔ながらの自然がたくさん残っているのです。

<p>タムシバ</p> <p>3~4月上旬、岩石山に春を告げる花。コブシに似ていますが花の基部に緑の葉が付かず、葉はコブシより細長く、裏は白みを帯びています。</p>	<p>フデリンドウ</p> <p>4~5月、山頂近くの本丸跡に花畑のように咲く、高さ5~10cmの青紫色の小さな花。昼間の晴れた日に咲き、雨の日や曇りの日には閉じたまま開きません。</p>	<p>コバノミツバツツジ</p> <p>4月に咲く岩石山の名花。高さ1.5~3mの落葉低木ですが、花は紫色。内側に濃色の斑点があります。枝先に三つ葉がありますが開花期にまだ葉は開きません。</p>	<p>ヤマツツジ</p> <p>高さ1m程度の半落葉低木。岩石山には多くあり、4月~6月の間、ずれながら長い期間咲いて登山客の目を惹きます。花は赤色でおしべが5本ある。</p>
<p>シリアカガシ</p> <p>どんぐりの尻が凹んでいるので「尻深椀」と名付けられた。岩石山を特徴づける常緑中高木。9~10月に花と実と一緒に見られ、実は食べることができます。</p>	<p>ヤマイバラ</p> <p>5月、大きな花序に直径3~5cmの白い花をつけ、バラ特有の芳香を漂わせます。驚越ルートの谷筋に群生して咲き、林道などの高い位置から見えます。</p>	<p>ナツハゼ</p> <p>山頂部の岩場などに生え、秋の紅葉が美しい落葉低木ですが、標高400mの山にあるのは珍しい存在。5月に紅色の小さなつり鐘型の花を咲かせます。</p>	<p>ツブラジイ</p> <p>県内のシイにはスダジイとツブラジイがありますが岩石山のシイは、ほとんどがツブラジイで、どんぐりの実が丸い形をしています。花期は4~5月。</p>
<p>タマミズキ</p> <p>高さ20mに達する落葉高木で6月に白い花。秋には小さな赤い実をつけ、落葉後の木は真っ赤に映えます。分布上珍しく西斜面の谷に散見して見られます。</p>	<p>ウラジロノキ</p> <p>葉の裏に白綿毛が生え白く見えるので裏白の木。八雲岩付近に多い落葉高木で、花は5月上旬、幹の表面に皮目(ひもく=通気を行う組織)があります。</p>	<p>ギンリョウソウ</p> <p>4~8月、カシやシイなどの照葉樹の下で見つかる真白で神秘的な植物。光合成をせず、腐植土から栄養を得て生きる「腐生植物」です。</p>	<p>オカトラノオ</p> <p>奥の院などに生える多年草。6~7月、茎の先に白い小花が房状の花穂となり、しなやかに曲がったその形状が、虎の尾のように見えたのでよか。</p>

岩石城下町の歴史遺産と添田公園

岩石山・岩石城の麓に形成された城下町。小倉と天領日田を結ぶ日田道に沿って、白壁が風情を醸す文化財・中島家住宅や中村家住宅など、歴史を感じさせる建物が並んでいます。また桜の名所と名高い添田公園には入浴施設などもあります。山登りの後は麓の街も散策してみてください。

国指定重要文化財 中島家住宅

陽光に照らされた真っ白な漆喰壁が、古い街道筋に存在感を放つ中島家住宅。妻入りの町屋が多い中、通りに面した平入りの主屋は銀色の瓦屋根がひととき大きく見え圧倒されます。中島家は江戸時代に徳川(はせらう)の製造で財を成し、名字帯刀を許された旧家で、明治以後は酒や醤油を作っていたそうです。屋敷の奥には岩石山を借景とした広大な庭園があり、往時の繁栄を物語っています。 MAP D

町指定有形文化財 中村家住宅

中村家は古くから酒造業を営んでいましたが、明治末期に醤油製造に転向。平成10年に廃業するまで多くの人に愛されてきました。現在の建物は天正初期のもので、妻壁に見える㊦の紋と3つの大きな漆喰納戸が印象的です。 MAP E

ほうこうし 法光寺

法光寺は1474年に門司で創立し、慶長年間に岩石城大手門跡に寺地を拝領されました。岩石城の大手門を移築したという山門には、細川家の家紋「九曜紋」が掲げられています。山門壁の梵鐘も元禄16(1703)年に造られたものです。 MAP F

添田公園

県下でも有数の桜の名所と名高い添田公園。春にはソメイシノをはじめとする約1600本の桜が咲き乱れ、筑豊地域唯一の桜の名所となっています。秋は岩石山全体の紅葉も色を添え、四季を通して色彩豊かな表情を奏してくれます。また公園内には「添田美術館」や福祉施設「そえだジョイ」があり、いずれも岩石城をイメージした建物がユニーク。そえだジョイには展望大浴場がありますので、山登りの後に汗を流してリフレッシュできます。 MAP G

添田町 まちづくり課 〒824-0691 福岡県田川郡添田町大字添田2151 TEL 0947-882-1231(代表) FAX 0947-82-2869 <https://www.town.soeda.fukuoka.jp/>

岩石山に生きる希少な植物たち

福岡県レッドデータブックには、福岡県に生息する生き物のうち、絶滅し、絶滅しそう約1000種類の動植物が記載されています。岩石山の登山道や林道には、こうした絶滅危惧種を含む多くの植物が育っており、いまだ手つかずの自然が残っているところに残されています。

<p>マツグミ</p> <p>針葉樹の高木に生ずる極めて珍しい半寄生の植物です。添田神社のツツジや添田公園のモミの枝に付いています。(絶滅危惧種 I A)</p>	<p>ウドカズラ</p> <p>大きなつる性植物。花は小さく黄緑色で7月に咲きます。絶滅危惧種ですが岩石山には2箇所に生育地があります。(絶滅危惧種 I A)</p>	<p>ヒノキシダ</p> <p>県内でも稀なシダ植物。羽片がヒノキの葉のように切れ込んでいて、先端は伸びて地面に付くと子株ができます。(絶滅危惧種 I B)</p>	
<p>ワサビ</p> <p>渓流沿いや落葉樹林内の溼潤地に生ずる多年草です。長い柄にハート型の葉。3~4月には白い花が咲きます。(絶滅危惧種 II)</p>	<p>マメツツラン</p> <p>糸状の根茎が岩上を這い、小さく肉質の卵円状の葉がついています。5~6月に小さく黄色い花を咲かせます。(絶滅危惧種 II)</p>	<p>キンラン</p> <p>明るい林に生ずるラン。高さ20~40cmで、5月に黄色い花を数個つけます。白花のキンランも希少種です。(絶滅危惧種 II)</p>	
<p>岩石山の自然は皆のもの</p> <p>岩石山は自然豊かな山です。これまで訪れた人々の愛情で、希少な珍しい植物もたくさん残されてきました。そうした植物たちを今後も絶やさないために、植物の採取や林の中への立ち入りはひかえましょう。</p>			<p>シタキソウ</p> <p>林下に生える常緑のつる性植物。約160度開いた2つの袋状の果実は、初冬に割れて白い長い毛を持った種子が風に舞います。(絶滅危惧種 I B)</p>